

「語いもんそ」

Vol.10 平成21年7月30日発行

この通信誌は、宝山ホールで活動されているボランティアスタッフによって発行されています。

大ヒット映画の舞台版「キサラギ」
の公演がありました。

4月24日(金)18時30分開演



有名俳優の出演とあって、開場時間前から宝山ホール前は長蛇の列になりました。



公演後お客様に感想をお聞きしました。

鹿児島市紫原の中澤様

『一つの場面に5人の男性だけの芝居、このようなのは初めて観ました。でもテンポがあり、時に笑いがあったってあっという間にエンディングになりました。「キサラギ」を愛しているのは自分が一番と思っている人が集まり、いろいろな話をしていくキサラギってどんな人??最後にはオチみたいな感じで、引き込まれて見ていました。エンディングでの5人の踊り、舞台と観客が一体になってとても楽しく、気持ち良く席を立つことができました。また、このような舞台があったら見に来たいと思います。』

楽しいひと時を有難うございましたと感想を話して下さいました。

子どもミュージカル『この花咲くや姫』に出演した、八木詩穂香さん(写真左)と南有香さん(写真右)は、子どもミュージカルに出演後演劇に興味を持ち有志を募りCEPというグループで演劇活動に励んでいるとのこと。今回も演技の勉強のために来ましたと笑顔で話してくれました。



～ 公演ボランティアスタッフの仕事の一部をご紹介します。～

宝山ホール職員の方と担当の仕事を確認します。



もしもの災害に備えて、開場前に避難誘導路をチェックします。『お客様を安全・迅速に誘導する』ため、全員で1階と2階の避難口を確認しました。お客様の安全は、スタッフの知識と意識が大事です。



人気の公演とあって、オリジナル法被を着たスタッフも頑張り、プログラムの販売も好評で、予想以上の売上になりました。



宝山ホールオリジナルスイーツの「ピッコロ」と「たいこのわぎり」は、とても美味しいと評判で、販売担当のスタッフも力が入りました。



クローク担当は、お客様の手荷物を大事にお預かり致します。



オペラ鑑賞入門講座

～オペラ「ドン・ジョヴァンニ」を楽しむ～

6月14日(日)14時～

日本・オーストリア修好140周年記念行事として、オーストリアからのオペラ「ドン・ジョヴァンニ」の公演が、9月15日(火)に上演されます。このオペラは、モーツァルトのオペラの中でも、その音楽と内容で、特に傑出した重要作と評価されている作品で、公演をより楽しむための講座が開催されました。

講座を取材しました。

講師は現在、オーストリアのウィーンに在住の杉本長史先生で、ご夫婦・ご家族連れ又若い女性の方々が多く、90分の講座で先生の流暢なる会話に、皆様一心に聞き入っていました。中には熱心にメモを取る方々がいました。途中でオペラ曲が流され、迫力があり、これが「オペラ」だと実感しました。

宝山ホールでの9月オペラ公演は、私、鹿児島県民は恵まれたものだと感じました。

音楽劇「ねこはしる」の公演がありました。

7月20日(月・祝)14時開演



開演直前のホール

夏休み最初の連休とあって、家族連れのお客様でいっぱいになりました。



ストーリーは、子猫のランと池に住む小さな魚の物語で、両者は友情を育んでいきますが、お母さん猫が、子猫たちの最後の訓練として「魚とり競争」を行うと決めたのです。森の生き物たち、自然の中のたくさんの「いのち」の大切さを、今を生きる私たちに感じさせるミュージカルで、親子で観に来られたお客様が多く、皆様感動されていました。



公演終了後ロビーにて、出演者とお客様の交流がありました。



お客様に公演の感想をお聞きしました。

加治木の上村留里子さん、奏琴さん（小5年）
「職場にアップルシートの申込み用紙が回ってきたので、申し込んだら当選しました。
ひとりぼっちの猫と魚の物語ですが、魚にとって猫は天敵です、「生きる」ということと「いのち」の尊さを感じるミュージカルを娘とともに観たことがとても良かったのと、内容にとっても感動しました。娘と共有したこの時間は、いい思い出になります」と笑顔で話して下さいました。



（写真は、出演者と上村奏琴さん・留里子さん）

今日の公演には、宝山ホールオリジナルこどもミュージカル「この花咲くや姫」に出演した多くの子どもたちも観に来ました。



薩摩の神々の長オオヤマツミを演じた、山口愛輝さんは、「とても感動しました、自然の中の、たくさんの命と友情の大切さを今日の「ねこはしる」で学びました」と語ってくれました。

鹿児島市田上町の加世田みらいちゃん
 「ナレーターのお姉さんの声がすごく好き、ミュージカルの内容がとても良かったし、ロビーで出演者の人達と写真が撮れたことが嬉しかったです」と満面の笑みで語ってくれました。



(写真中央が、加世田みらいちゃん)

松元町の本村静羽さん
 「歌の掛け合いが面白く、猫と魚の友情がすばらしかったです。こどもミュージカル『この花咲くや姫』を経験していたので、自分が舞台に出ている気分で見せていました、足の動きや歌がすごく、帰ったら真似してみたい」と舞台の感動を話して下さいました。



(写真左側 ボランティア野口さん、右側 本村静羽さん)

今回の公演では、公演ボランティア13人中、11人が今年4月からの新人ボランティアの皆さんで、公演後、ボランティアスタッフとして、公演に携わった感想をお聞きしました。

取材した野口理恵さんも、4月からの新人広報ボランティアです。

藤山雪子さん

久しぶりに「いらっしゃいませ」という言葉を使ったが、うまくリズムがとれずとまどいもあつ

たがよい経験ができた。職員の方が近くにいるくさだることが心強く、安心してできた。

西村寛子さん

担当部署は、クロークでしたが、そんなに忙しくなく、落ち着いてできた。

光瀬百合子さん

「いらっしゃいませ」などの声をかけることが自然に出てこず、思っていた以上に難しかった。今迄、お客様として宝山ホールに来ることしかなかったので、裏方に徹するスタッフの方々への感謝の気持ちをもてたし、よい経験になりました。

松尾安男さん

それぞれ担当が違うスタッフの、裏方の仕事に興味があるので楽しんでやれています。とにかく楽しい。

徳留美亨さん

今日は緊張しており、楽しみでもありました。担当は受付でしたので、微笑んで、また笑顔。お客様・子ども達と出会えて嬉しかった。結果、緊張に楽しみが勝ちました。



(写真はボランティア徳留美亨さんと取材する野口さん)

《今回の取材担当》

取材記事	広報ボランティア	城 勝美
取材記事	広報ボランティア	野口理恵
撮影・取材記事	広報ボランティア	四十住孝行

宝山ホール広報ボランティア「語りもんそ」編集部
 〒892-0816 鹿児島市山下町5-3 宝山ホール
 TEL099-223-4221 FAX099-223-2503